

レタス

—— 発病・加害時期
 === 発病・加害最盛期

作型・病害虫名	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
晩夏まき									●	▲	■		
									●	▲	■		
灰かび病											—	—	
菌核病											—	—	
軟腐病											—	—	
ヨトウムシ											—	—	
ハスモンヨトウ											—	—	
アブラムシ											—	—	

灰色かび病

留意事項

- 1 薬剤耐性菌が出現しやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
- 2 QoI剤(11)、SDHI剤(7)は、耐性菌が生じやすいので、1作1回程度の使用に努める。

防除方法

- 1 排水を良好にし、ポリフィルムなどでマルチングを行う。
- 2 被害株は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。
- 3 発生が見込まれる時期に、下記の薬剤を予防的に散布する。
 - ・ダコニール1000 M5 【1,000倍 14日/3回】
 - ・ベルコート水和剤 M7 【1,000~2,000倍 14日/3回】
- 4 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ロブラール水和剤 2 【1,000~1,500倍 14日/3回】
 - ・トップジンM水和剤 1 【1,500~2,000倍 7日/2回】
 - ・アフェットフロアブル 7 【2,000倍 前日/3回】
 - ・アミスター20フロアブル 11 【2,000倍 7日/4回】

菌核病

留意事項

- 1 土壌中に黒いネズミのフンのような菌核が残り伝染源となる。
- 2 QoI剤(11)、SDHI剤(7)は、耐性菌が生じやすいので、1作1回程度の使用に努める。

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

- 3 パレード20フロアブルの成分ピラジフルミドの総使用回数は、3回以内（但し、かん注は1回以内）。

トレイ※（セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊（約30cm×60cm、使用土壌約1.5～4L）

防除方法

- 1 田畑輪換を図る。
- 2 排水を良好にし、ポリフィルムなどでマルチングを行う。
- 3 連作を避ける。
- 4 被害株は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。
- 5 収穫残さをほ場外に持ち出し処分する。
- 6 定植前に、たん水処理を行う。
- 7 下記の薬剤を育苗時に、セル成型育苗トレイ（培土）に処理する。
 - ・ [パレード20フロアブル](#) 7
 【100倍 0.5L/トレイ※ かん注 育苗期後半～定植当日／1回】
- 8 発生が見込まれる時期に、下記の薬剤を予防的に散布する。
 - ・ [ベルコート水和剤](#) M7 【1,000～2,000倍 14日／3回】
- 9 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [ロブラール水和剤](#) 2 【1,000倍 14日／3回】
 - ・ [トップジンM水和剤](#) 1
 【1,500～2,000倍 7日／2回】 または
 【1,500倍 1.5L/m² かん注 45日／1回】
 - ・ [ファンタジスタ顆粒水和剤](#) 11 【2,000～3,000倍 3日／3回】
 - ・ [パレード20フロアブル](#) 7
 【2,000～4,000倍 前日／3回】

軟腐病

留意事項

- 1 高温多湿時に多発する。
- 2 キノンドー水和剤40は、水産動植物に強い影響を与える恐れがあるので、河川、湖沼及び海域等に飛散、流入しないよう注意して使用する。

防除方法

- 1 連作を避ける。
- 2 排水を良好にし、ポリフィルムなどでマルチングを行う。
- 3 被害株は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。
- 4 発生が見込まれる時期に、下記の薬剤を予防的に散布する。
 - ・ [キノンドー水和剤40](#) M1 【600倍 21日／5回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

- ・ [バイオキーパー水和剤](#) ー(生)
【野菜類(除かぼちゃ、ズッキーニ) 500~2,000倍 発病前~発病初期/ー】
- 5 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
- ・ [バリダシン液剤5](#) U 1 8 【800倍 前日/3回】
- ・ [スターナ水和剤](#) 3 1 【2,000倍 7日/2回】

ヨトウムシ

防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [スピノエース顆粒水和剤](#) 5 【5,000倍 3日/3回】
 - ・ [コテツフロアブル](#) 劇 1 3 【2,000倍 前日/2回】
 - ・ B T 剤 1 1 A (IX野菜類の病害虫防除 3野菜類 参照)
 - ・ [ベネビアOD](#) 2 8 【2,000~4,000倍 前日/3回】
 - ・ [グレーシア乳剤](#) 3 0 【2,000~3,000倍 3日/2回】

ハスモンヨトウ

留意事項

- 1 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

防除方法

- 1 下記の薬剤を育苗時に、セル成型育苗トレイ等に処理する。
 - ・ [ベリマークSC](#) 2 8
【400倍 0.5L/セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊(約30×60cm、使用土壌約1.5~4L) かん注 育苗期後半~定植当日/1回】
- 2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [コテツフロアブル](#) 劇 1 3 【2,000倍 前日/2回】
 - ・ [プレバソンフロアブル5](#) 2 8 【2,000倍 前日/3回】
 - ・ [アフーム乳剤](#) 6 【1,000~2,000倍 3日/3回】
 - ・ [ディアナSC](#) 5 【2,500~5,000倍 前日/2回】
 - ・ [プレオフロアブル](#) UN 【1,000倍 7日/2回】

アブラムシ類

防除方法

- 1 寒冷しゃで苗を被覆し、侵入を防ぐ。
- 2 シルバーポリフィルムでマルチングを行う。
- 3 下記の薬剤を施用する。

注1: 同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2: 異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

- ・ [スタークル粒剤](#) **4 A** 【2g/株 植穴土壌混和 定植時/1回】
- 4 発生を認めたら、下記の薬剤を散布する。
- ・ [ウララDF](#) **2 9** 【2,000倍 前日/2回】
 - ・ [コルト顆粒水和剤](#) **9 B** 【3,000~4,000倍 前日/3回】
 - ・ [ダントツ水溶剤](#) **4 A** 【2,000~4,000倍 前日/2回】
 - ・ [トランスフォームフロアブル](#) **4 C** 【2,000倍 前日/3回】

ネキリムシ類

留意事項

- 1 ダイアジノン粒剤5の成分ダイアジノンの総使用回数は2回以内。

防除方法

- 1 下記の薬剤を、セル成型育苗トレイ（培土）に処理する。
 - ・ [プレバソンフロアブル5](#) **2 8**
 【100倍 0.5L/セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊（約30×60cm、
 使用土壌約1.5~4L） かん注 育苗期後半~定植当日/1回】
- 2 下記の薬剤を施用する。
 - ・ [フォース粒剤 劇](#) **3 A** 【9kg/10a 全面土壌混和 定植前/1回】
 - ・ [アクセルベイト](#) **2 2 B** 【3~6kg/10a 株元散布 前日/3回】
 - ・ [ダイアジノン粒剤5](#) **1 B**
 【4~6kg/10a 全面土壌混和または作条土壌混和 は種時または定植時/2回】
 【6kg/10a 土壌表面散布 は種時または定植時/2回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。